

事業所名:くまもと芦北通園センター(多機能型)

公表:2022年3月31日(実施:2022年2月)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点・課題や改善目標等
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	80%	20%	0%	その日のご利用者数により、適当ではないと感じる日もある。
	②	職員の配置数は適切であるか	80%	20%	0%	送迎時間と放課後デイの時間で、療育スタッフの配置に工夫している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	90%	10%	0%	寝台を設置し、安全に過ごして頂ける様にしている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	30%	70%	0%	計画・行動・検証・改善を目的とし、6ヶ月毎に会議を設けている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	80%	20%	0%	2021.1の成人お祝い会までは、保護者行事を行っていたが、感染症蔓延からはすべて事業所内にて継続している。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100%	0%	0%	年度末アンケートを取り、3月公表
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	0%	50%	50%	定期的に監査が実施されている。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	0%	100%	0%	教育委員会の年間計画内で実施中。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	30%	70%	0%	半年毎の見直し、修正を行っている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	0%	100%	0%	横地分類や発達検査・外来訓練での発達状況等を周知し、参考にしている。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%	0%	0%	月案として、保育士や児童発達管理責任者が作成している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	80%	20%	0%	多職種からの意見を聞き、改善している。(保育士・看護師・理学療法士・児童発達管理責任者・介護福祉士・ケアワーカー・医師)
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	0%	100%	0%	祝日は、長時間の利用となり、平日は放課後の利用の為、違いが生じる。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	90%	10%	0%	利用状況に合わせ、集団と個別の活動を適宜配分している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%	0%	0%	前日までに日案を立てて、食事介助や療育活動の担当を配置・周知している。

	⑩⑥	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	50%	50%	0%	支援終了後は、送迎業務を担う職員が多く、その他の職員で個別記録への記入を行っている。
	⑩⑦	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%	0%	0%	記録内容については、記入者個人の主観が大きく影響している。
	⑩⑧	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	100%	0%	0%	6ヶ月毎にモニタリングし、会議で計画の見直し立案を継続している。
	⑩⑨	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	0%	100%	0%	内容把握不足
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑩⑩	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	80%	20%	0%	個人担当が主となり、直接支援している職員が参加する様調整している。
	⑩⑪	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	100%	0%	0%	
	⑩⑫	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	100%	0%	0%	当センター外来受診からスタートし、主治医が決定した状態から利用開始となる。かかりつけ医とは、適宜情報提供有
	⑩⑬	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	0%	100%	0%	現在児童発達の定期利用者がゼロ。過去の実績では、書面や担当者会議での情報共有を行っている。
	⑩⑭	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	100%	0%	0%	ほとんどの登録者が、生活介護へと移行され、多機能型の中で利用継続となっている。
	⑩⑮	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	80%	20%	0%	水俣・芦北圏域での児発管連絡会議に参加している。日中活動協議会（全国版・九州版）の研修に参加している。
	⑩⑯	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	0%	10%	90%	職員の託児所の子ども達に遭遇した際は、挨拶を交わしている。
	⑩⑰	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	90%	10%	0%	感染対策を最優先に行い、可能な限り参加している。
	⑩⑱	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	90%	10%	0%	体調の変化への、迅速な対応を最重要ポイントとしてる。
	⑩⑲	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	0%	50%	50%	感染対策が主となっており、現在保護者参加型の支援は中止となっている。

保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	80%	20%	0%	契約時に実施
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	50%	50%	0%	サービス等利用計画の担当者会議内での把握が主である。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	100%	0%	0%	感染対策で、療育活動内での行事に切り替えている。今年度もクリスマス会の保護者会プレゼントでの参入を頂いた。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	80%	20%	0%	苦情があった場合、迅速に事業所内での伝達・対策に努めている。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	0%	年に2～4回新聞発行を行っている。月案として、療育予定表とランチ食の献立表を毎月配付している。
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	100%	0%	0%	必要な情報伝達は、保護者参加である相談員の担当者会議内で行っている。
	③⑯	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	80%	20%	0%	統一した関りが持てる様、必要時は手でのサイン・文字盤・筆記を用いている。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	0%	50%	50%	今年度も新型コロナウイルス感染対策で、入所事業行事が中止となっている。
非常時等の対応	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	80%	20%	0%	職員は把握しているが、保護者へのマニュアル周知は、不十分である。
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	0%	0%	療育時間の中で、年に1回実施している。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%	0%	0%	処遇接遇委員会の身体拘束体験を、毎年行っている。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	50%	50%	0%	不足している所を、随時補っていく。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	100%	0%	0%	保護者からの情報を受けて、医師の判断を仰ぎ栄養科より提供している。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	100%	0%	0%	安全管理対策委員からの周知と共に日々のヒヤリハット事例を振り返っている。

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。